



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 6月号

第44回

2018年度 リーグ戦前半戦を終えて 後半戦の鍵は「攻撃の終わり方」と「連動」

U15リーグを1年生が観戦



チームが「高い位置」でプレーできると攻撃の力も出せる!



ドリブル×
連係のスキルは
今後の課題

リーグ前半戦を振り返り

4月からあつという間に7節が終了しました。MJリーグはクラブユース東北大会期間を挟み、7月まで小休止となります。たくさんのご観戦と応援ありがとうございました。

その感謝の気持ちをもって選手たちと戦っておりますが、現状は勝利できておりません。大きな反省点として、私が選手の「判断力」や「戦術的情報処理能力」、「フィニッシュの部分」、「フィジカル面」、「モチベーション」、「自己発見・自己改善能力」など「選手」としての成長、そして「人」としての成長に訴えかける取り組み、その発信手段を検討すべき点がありました。その点をまず、監督である私の力不足と反省しております。

選手たちは、自分なりに精一杯やっているところだと思います。これからも応援の程、宜しくお願い致します。

●選手みなさんへ

「これからの一日一日、君たちのそれぞれの今がリアルに出る一日、可能性を生み出せる、感じられる一日にしよう。

これまでの自分に今後はもっと「チームのなにかのため」に積極的にポジティブな活動にしていこう。

そして、現状を受け止めつつ、「らしくないこと」「少し面倒くさかったこと」「やろうとして出来なかったこと」に対して皆それぞれが自ら行動を起こしてみよう。

そんな地道な部分から、リーグ後半戦では自分の「サッカー観」「情熱」がどうだったかを噛みしめられる試合にしよう。

●名プレイヤーであり、元日本代表監督だった平尾誠二氏の格言。

「チーム・組織として、最大限の成果・結果が出るように、瞬時に個人が判断を共有し、己が成すべき行動へと即座に移る。その連続がチームとして組織として動くことが求められる。」

「攻撃をもって試合を制する」

ここまでの前半戦で今後を感じさせる試合だったのが AC エポルティーボ戦です。相手ゴール側の高い位置を目指した試合運びを意識。多少強引ではありましたが、相手自陣で守備も攻撃もできるところに集中しました。

そのために相手の中盤選手の背後やDFの背後を使って前進することでコート中央や縦への攻撃を意識させます。そして取り組んできたサイドを使った攻撃で連係による突破やサイドバックが高い位置で関わったプレーが生まれると雰囲気よかったです。

今後は、攻撃力を磨きますが、特に得点力は課題です。また、連係のイメージ共有、FWとサイドの選手の動きなどを強化すること。攻撃後の守備の連係をもっと強化していきます。

また、上記のことをより質・精度として試合を通して持続させていくためには、「走力差」があることはこれまで以上に強く取り組まなければなりません。

これについては私だけでなく、私の知人でサッカー初観戦の方も「サッカーはもっと走るのかと思った」と、とても貴重なことを言ってくれました。これについてはサポるといふより、考え方や感じ方の問題も含まれていると思いますが、今のところ「体力」の問題は大々かと思っています。

「体力がなければ、疲れに集中してプレーの集中力が損なわれ、質も落ちる。ミスが多くなれば精神的に落ち込み、勢いも落ち込む。そうなるとうちは仲間まで信じれなくなる。」という悪循環になります。

5月下旬から早急に「走り」と前述した部分に取り組みます。後半戦では観に来て下さる皆さん、そして選手自身も自信に満ちた試合できるように全力で走り続けます。

後半戦も選手たちへの応援を宜しくお願い致します。

前半戦のスコアから見てくることは?

【MJリーグ 日程】

- 5月 6日(日) VS ACアズーリ (アバン 0 : 3 アズーリ)
- 5月13日(日) VS ACエポルティーボ (アバン 0 : 1 エポルティーボ)
- 5月19日(土) VS FCみやぎ 2nd (アバン 0 : 9 FCみやぎ)

【クラブユース選手権 日程】

- 4月29日(日) VS 青葉FC (アバン 0 : 3 青葉)
- 5月12日(土) VS リベルタ (アバン 3 : 1 リベルタ)

この試合を忘れてはならない 2勝1敗という結果でしたが、得失点差によってグループリング3位、上位1チーム外に進めず。

クラブユースの結果を持って「復興支援フェスティバル代表決定戦」への出場となりました。予選結果の3位と4位の各チームによって行われ1位がフェスティバルへ出場。

- 5月20日(日) VS FC エナブル (アバン 1 : 1 エナブル ⇒ PK戦の結果 ● 3 : 4)

※ Facebook でも今後のリーグ後半戦やチームの活動について紹介していきますので、ぜひジュニアユースの情報を見てみてください。

アバンツァーレ スタッフ紹介

齋 斗真 コーチ (さい とら)



1998年(平成10年)7月11日 生まれ
アバン歴
小1～中3の9年間(選手コースには小3から)
東北学院大学工学部電気電子工学科
東北学院大学工学部サッカー部に所属
数学、物理と毎日格闘中
毎週実験のレポートに追われています(笑)

今の中学生を見ると、自分が中学生の時はもっと元気よく活動してたかな。と思いました。なので、もっと元気よく！ やって欲しいなと思いました。みんなよりも少しサッカー人生が長いので、その経験を少しずつ伝えていけたらなと思います。

斗真コーチは、畠山コーチがアバンツァーレのコーチとして活動をスタートした時にはもうジュニアのトップチームの選手でした。この世代は強かったです。選手一人ひとりが考え、個性に溢れる年代でした。

そしてジュニアユースまで活動した選手がこうしてチームスタッフとして迎えられたことは幸せなことです。

斗真コーチの魅力は人柄です。プロフィールコメントを見ていただいてわかる通り、後輩思いの人です。とても信頼できる人柄です。

プレーではゲームコントロールしながらフリーキック、ロングシュートの名手でもあります。時々、ジュニアユースの活動にも力をかしてくれますので、気軽に相談してみてください。

ジュニアユースの取り組み！



実際に使っているサッカーノートです。

ジュニアユースの貴重な取り組みの一つに『サッカーノート』があります。サッカーノートは、各自2冊準備。コーチと交換ノートのように毎週交換します。『自分のために、自分を振り返る』ことが目的です。サッカーノート見るだけでも、いかに中学3年間が重要な時間かわかります。最初はただ『提出すること』『コーチにコメントをもらうこと』だけだったものが、次第に自分を深く見つめなおすものに変化していきます。その成長には、驚くべきものがあります。

★ある選手のサッカーノート

今日は、青森山田中学校という全国レベルの相手と戦えて、良かった点・悪かった点・改善点など様々な点が浮いてきた。相手は、スピードが速かった。よせのスピード・パススピードなど。そして声も出て、チームを盛り上げていた。小学校から変わらない基本的な部分をしっかりやっていた。でも、自分たちは負けたが、まずそのレベルに追いつかないとダメだし、とうぜん全国は目指せられない。自分たちは、攻守の切り替えとボールを取ったあとの行動がすくない。ボールを取られてもその後の切り替えが大切。ボールをうばった後、あいている人へのパス、スペースへのパスまでしっかりやる。最後の試合、自分は、相手より先にさわる。その後のパスまで、できていた。それを、1日をとおしてつづけてできるようにしたい。

コーチの思い出のアルバム

中学生3年生のコーチ



今から、22年前の15歳の自分。年齢では思い出したくないものですね(笑)

この時は、今よりもっと細くて、ヒョロっと長く大きい選手でした。当時で身長が175センチ。足のサイズが28センチでした。

その靴も地元のスポーツ店、店頭には置いていなかったもので、通っていたクラブチームのスクールコーチからもらった直輸入通販カタログを使って購入していました。

この3年生の年は腰痛と骨折した足首の慢性的な捻挫によって満身にプレーできた思い出はありません。

ですが、唯一遠征した遠野中学校Bチームとの練習試合で相手自陣でボールを奪われた後にセンターサークル付近に戻りながらインターセプト。それと同時に前を向き、相手自陣側のサイドに開いたFWにパスしながら動き出してアーリークロスをして2人の相手DFの間を通りながら空中で胸トラップ。

そのままスペースにドリブルからキーパーと1対1で脇の下を通してシュート。でも！一度ゴールポストに当ててしまい、跳ね返ったのを押し込んでゴール！がその当時でのベストゴールで、一番の思い出です。

推定 2メートル強 大学2年生～ソク！つとした空中戦～



次の写真は、大学2年生の時。フォワードからセンターバックに転向した年のリーグ戦決勝での1シーン。

当時、コーチはBチームで、決勝の相手は同じ大学のCチーム。ただ戦力差はなく、拮抗した試合になるのが恒例でした。また、毎年BとCチームが出場しており、優勝決定戦はBとCの対戦となります。そして、同時に4年生にとって最後の活動となるので熱い試合となるわけです。

その試合での競り合いの写真。お互い180センチ越えの体格の大きい2人のヘディング。この時、相手の左肩にうまく乗れたことで身体が勢いよく宙に浮き、対空時間も長く、地面を見下ろすと、2階から飛び降りるかのような恐怖もありました(笑)。DFとなってたくさん練習したヘディングが大成功した一番の瞬間でした。皆さん、これからサッカーを続けていく上で、練習の成果が出るような、練習に励んだ自分に負けないような試合の中で、『喜び』や『悔しさ』などを感じてみてください。きっと、その後の活動に生きてくると思いますよ。

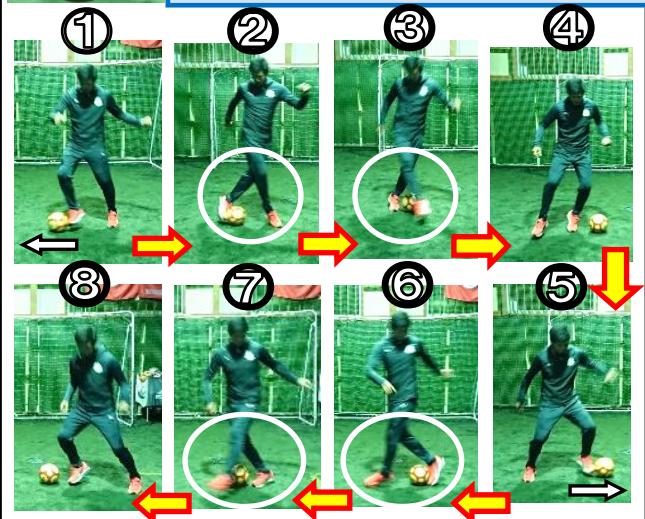
テクニカルレポート



皆さん、これまで戦術的なことやプレーの細部、技術的ななどをこのコーナーで紹介してきました。今回は少しリラックスしてご覧ください。

とは言っても選手皆さんには少し課題のような内容になりますが、まずは読み進めてみてください。

今回は、コーチがスクール練習で小休止する時に「リラックスタイム」として取り入れているボールを使ったステップや身体の動きをメインとしたエクササイズを紹介したいと思います。



【活動のポイント】 ⇒ 「力を抜いて踊るように軽快に動くこと」

【動きのアドバイス】 ⇒ 写真の順番(番号順)に説明します。

- ①右のアウトサイドで向かって真横に押すようにスタートします。
 - ②その後、軸足だった左足(写真では向かって右側)が右足の膝の後ろ側で交差して、その足の甲でボールを捕まえています。
 - ③そして、アウトサイドで使った右足がボールの前を通るようにシザース(またぐ)して④の状態になります。
 - ④から⑧までは①から④までの逆の流れとなります。
- リラックスして高めることも大事です。ドリブルに必要なリズム、そしてボディバランス、ステップワーク、足と身体の身のこなし。どのような状況に陥っても自然と身体やステップの動きの組み換えなどによって、その状況に対応できる力も磨きましょう。

露W杯 直前「W杯のワンシーン」

6月14日から7月15日まで開催されるロシア(露)ワールドカップがいよいよ始まりますね。

数々の名シーン、スーパープレーが生まれる大会。心躍る毎日が目前となりましたが、皆さんには記憶にのこる大会、場面はありませんか？コーチはやはり日韓ワールドカップでのスウェーデンとアルゼンチン戦を観戦した時。敗けたアルゼンチンのスーパースター、パティストウタ選手の涙です。もらい泣きしてしまいました。

それとは別に、忘れられないのが、南アフリカ大会でも中村俊輔選手(現ジュビロ磐田)の行動です。この大会で中村選手はチームの中でも年長者で経験豊かで絶頂期でもありましたから、出場が期待されました。

しかし、大会ではベンチスタート。海外での輝かしい活躍経験のある選手ですから、もちろん悔しかったでしょう。

でも中村選手、素晴らしかった。同じポジションで出場した松井大輔選手に「コロンビア代表のサイドバックの選手にどンドンドリブルを仕掛けていけばチャンスは生まれる」とアドバイス。中村選手もかつて先輩たちから同じように接してもらったことから、自分の今できるのはベンチワーク。支えてあげること。この切り替えと心の持ち方にますますファンになりました。プレーだけでなく、こういったベンチにいる選手の様子から学ぶことがあるので見てみてください。